



# 地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) [isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp](mailto:isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp)

## 後継組織 準備委立ち上げ

### 百合、緑、一色自治会の支援固まる

地域再生協議会は役員会を開き、後継組織(仮称・元気なコミュニティ協議会)の設立に向けた準備委員会の発足を決めた。百合が丘、緑が丘自治会、一色地区会が後継組織に対する財政面での支援方針を固めたことから、来年4月の発足を目標に準備を急ぐ。10月半ばにも第1回会合を開き、細目を詰める。

準備委のメンバーは、現協議会の3役と山本・地域交流部会長、三浦・音楽活動部会長、古矢・散策路部会長、金子・公社部会長、橋本・一色小CS学校運営協議会会長の9名。今後、月1ペースで会合し、新組織・事務局体制、運営方法、規約作成、事業計画・予算などを検討。拡大部会長会議、本部会議にかけて決めて行く。事務局体制、規約などは抜本的に見直すことになる。

事業骨格については合意が得られ、懸案の事業資金も基礎部分は地区内有力3自治会が助成する方向でコンセンサスが出来上がった。3自治会とも来年初めの自治会総会で正式決定する。新組織はこの自治会支援と町の生涯学習補助をもとに活動することになり、事業規模、運営体制の大幅なスリム化が求められる。

一方、現協議会は事業の閉じ方、移行する部会は自立を前提にした活動プランの検討に入る。また組織解散に伴う所有資産の整理、譲渡、処分などの作業も並行して行う。今のところ、散策路に設置した案内・誘導パネルなどは町に譲渡し、こりゅう塾用の器材、事務機器などは極力後継組織が継承する方向で調整したいとしている。

### お試し移住など11月から コロナ禍で動き取れず



今年度の協議会事業はご承知のような状況下で止まったまま。町有施設の閉鎖が続いており、10月以降の利用の見通しが立たないためだ。9月から実施予定のお試し移住(空き家対策部会)も募集を棚上げにしたまま。非常事態宣言の終了後の動きを確認し、11月末からの開始を見込んでいる。(写真はお試し移住用の県公社居住スペース)

音楽活動、地域交流などの部会もコロナ対応を見守りながら再開のタイミングを探っている。